

June

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 赤	4	5	6	7 子
8	9	10 赤	11	12	13 料理教室	14 子 京極夏彦トーク ショー(配信上映)
15 英	16	17 赤	18	19	20	21 子 旬の料理教室
22 子 かがく実験教室	23	24	25	26	27	28 子
29	30					

### ＊おはなし会情報＊

会場：おはなし会コーナー(パオ)  
時間：10:30～11:00  
参加無料・申込不要

**赤** あかちゃんおはなし会  
※第1火曜日  
※第2火曜日  
※第3火曜日

**子** こどもおはなし会  
※毎週土曜日  
※第3日曜日  
※第4日曜日(隔月開催)

**英** えいごのおはなし会  
※第2日曜日

## 図書館展示情報

### 児童展示 時の記念日

6月10日「時の記念日」は、日本で初めての時計が鐘(かね)を打った日です。そこで、時間に関する本を集めました。タイムスリップやタイムトラベルのお話もありますよ。

時間って、どうして大事なの？  
時間って、どうやって読むの？  
どんな時計があるの？  
たくさん読んで、楽しい時間を過ごしましょう！



### 一般展示 あなたはどのタイプ？ 性格×読書＝あたらしい出会い

新しい趣味や学びの出発点に！  
タイプ診断で自分に合った本と出会い、新たな楽しみをの扉を開いてみませんか？

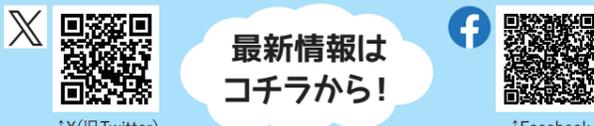


### YA展示 ケセラセラ

「ケセラセラ」とはスペイン語で「なるようになる」という意味を持つ言葉です。  
新生活にも慣れ、疲れや悩みがでてくるこの時期…いつも頑張っているあなたのために気分転換になりそうな本を展示しました。  
肩の力を抜いて気楽にいきましょう。ケセラセラ～♪

このほか館内の様々な場所でも展示をしています。ぜひこの機会にお立ち寄りいただき、色んな本と出会ってください♪

最新情報は  
コチラから！



## 5月 イベント報告

### 『日本のアートディレクション展2024』を開催しました

4月12日～5月6日まで、東京ADCによる「日本のアートディレクション展2024」と金沢ADCによる「第12回金沢ADC展」を開催しました。約120点が展示され、日本のアートディレクションの最新線をお楽しみいただきました。

子どもから大人まで、たくさんの方にご来場いただきました。誠にありがとうございました。



### 写真絵本作家 小寺卓矢さんによる イベントを開催しました

5月18日㊿、写真絵本作家の小寺卓矢さんによるおはなし会・ミニワークショップ・トークショーを開催しました。ご本人による著書のおはなし会に、椿の葉っぱを用いたワークショップでは、たくさんのお子も楽しんでいただきました。

トークショーでは「森がおしえてくれたこと」と題し、写真を交えて絵本作りについてお話しいただきました。たくさんの方にご参加いただき、ありがとうございました。



## こども陶芸教室&初心者向け陶芸教室 はじまります！

7月より、こども向け陶芸教室と、初心者向け陶芸教室を開催します。基礎から学べるので、ぜひご参加ください♪

### 【開催クラス】

①こども向けクラス 毎週土曜10時～12時  
会費／12,000円(月4,000円)  
対象／小学生(小学3年生以下は保護者同伴)

②初心者向けクラス 毎週土曜14時～16時  
会費／15,000円(月5,000円)  
対象／中学生～大人(未経験もしくは経験1年以内の初心者のみ)

【定員】 各クラス16名(先着順・定員に達し次第受付終了)  
【申込み】 6月14日㊿までに、カレードにご来館またはお電話で

## 京極夏彦トークイベント 配信上映

石川県立図書館で行われる『京極夏彦トークイベント「お化けの使い方」』を、カレードでも配信上映します。

【会場】 学びの杜のいち カレード 研修室・会議室  
【日時】 6月14日㊿ 13時30分～15時(13時より受付開始)  
【定員】 50名(事前申込み・先着順)  
【申込み】 カレードにご来館、またはお電話で  
※カレードでは配信上映のみとなります。  
※会場内での録画・録音・撮影は禁止します。

## 今月のおすすめ本 『百年文庫 68 白』より 北條民雄「いのちの初夜」

出版社：ポプラ社 分類ラベル：Y908.3//68

北條民雄は、19歳でハンセン病(らい病)となった作家です。代表作「いのちの初夜」は1936年に発表され、文学界賞を受賞しました。原題は「最初の一晩」でしたが、北條民雄を高く評価した川端康成が「いのちの初夜」と名付けてくれました。川端康成らしい美しいタイトルです。

主人公の尾田はハンセン病と宣告され、ひとりで病院に向かいます。梅雨に入る少し前の明るい午後でした。症状はまだ軽いものの、当時は不治の病です。入所すると、風呂で消毒され、荷物は検められ、持参金は病院用の金券に換えられてしまいます。まるで人権を奪われたような社会的な死です。夜になって、尾田は命を絶とうとしてやめます。患者たちが眠る病室に戻ったとき、同じ病の義眼の青年、佐柄木が言いました。

「僕、失礼ですけど、すっかり見ましたよ」

この夜は、尾田にとって「生涯忘れることのできない記憶となるであろう一晩」となったのでした。

近年の感染症の脅威はどなたも記憶に新しいでしょう。北條は21歳で亡くなりましたが、彼の本名は2014年まで明かされていませんでした。父親から戸籍を抜かれ、親族も長く偏見や差別に苦しめられたのだと思います。私はふたりの対話の場面が大好きで何度も読み返してしまいます。罹患した人々がどう生きたか、病と死の受容を見事に描いた、夜明けが見える愛おしい作品です。

(スタッフT)